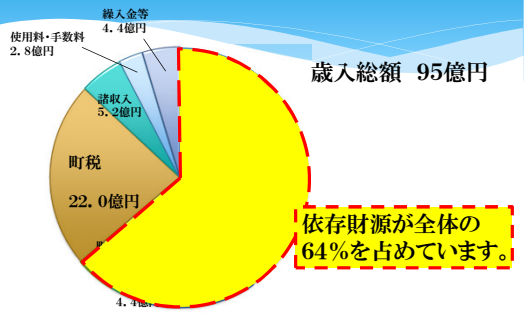
まちの財政

美幌町総務部財務グループ

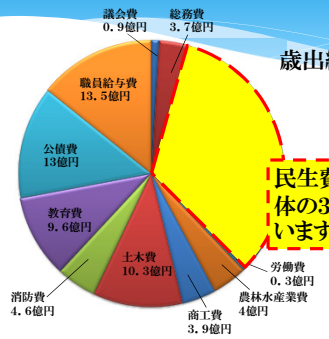
平成26年度のまちの予算（歳入）



歳入総額　95億円

依存財源が全体の64％を占めています。

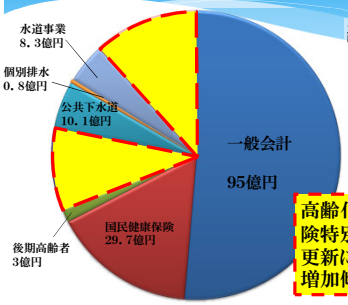
平成26年度のまちの予算（歳出）



歳出総額　95億円

民生費と衛生費で全体の33％を占めています。

平成26年度のまちの予算（全体）



総額　185．2億円

高齢化の進展により介護保険特別会計が、医療機器の更新により病院事業会計が増加傾向にあります。

第2次美幌町財政運営計画

（策定の目的）

①第1次（H17～H24）計画の期間満了。

②厳しい財政状況の中、住民サービスの維持と向上に努めることが必要。

③将来世代への過度な負担を残さないためにも、未来に責任を持った持続可能な財政運営が求められている。

④平成24年11月に今後10年間（H25～H34）の財政運営の指針として策定

第2次美幌町財政運営計画

【第1次計画の成果】

	H17 → H24（目標）	H24（実績）
・実質公債費比率	23．3％→14．0％	12．0％
・地方債現在高	161．8億円→103．2億円	102．9億円
・積立金現在高	23．5億円→9．3億円	27．0億円

全項目で目標値を達成

第2次美幌町財政運営計画

【現状での財政見通し】
・歳入→人口減少などによる町税の伸び悩み
　　→縮減傾向にある地方交付税
・歳出→人件費の抑制、扶助費の増加、投資的経費のすべてを実施予定として計上

→ 平成25年度から平成34年度までの10年間で、
21億2千万円の収支不足が発生！

第2次美幌町財政運営計画

【財政健全化に向けて】 H25→H34 の目標値

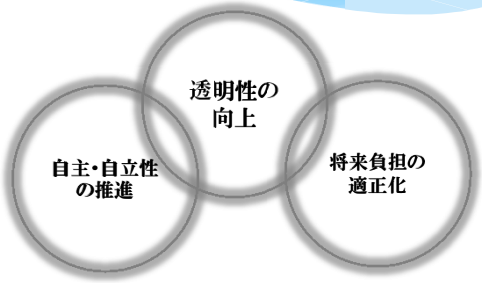
実質公債費比率　12.0%　→　10.9%

積立金現在高　27.0億円　→　20.2億円

地方債現在高　102.9億円　→　67.9億円

第2次美幌町財政運営計画

【財政健全化のための方向性】



第2次美幌町財政運営計画

【歳入の具体的方策】
・安定的な税財源の確保
・受益と負担の適正化
・遊休資産の売却・貸付の推進
・基金の有効活用
・新たな自主財源等の確保

第2次美幌町財政運営計画

【歳出の具体的方策】
・人件費総額の抑制
・公債費の抑制
・扶助費の見直し
・投資的経費の厳選
・特別会計、企業会計の見直し
・事務事業の見直し

第2次美幌町財政運営計画

【今後の財政運営】
・自主的・自立的な行政運営の推進
・行財政運営システムとの連携強化
・多様な主体との協働の推進
・職員の意識改革

平成25年度のまちの決算

【第2次財政運営計画との比較】

	H24	→	H34	H25（決算）
実質公債費比率	12.0%	→	10.9%	10.7%
積立金現在高	27.0億円	→	20.2億円	34.0億円
地方債現在高	102.9億円	→	67.9億円	97.0億円

過疎地域の指定

平成26年度から過疎地域に指定される。

【過疎指定の要件】
（人口要件）
昭和60年～平成22年の人口減少率
19%以上　→ 19.2%
（財政力要件）
平成22年度～平成24年度（3年平均）の財政力指数
0.49以下　→ 0.335

過疎地域の指定

【特別措置（地域指定によるメリット）の内容】
・施設整備（ハード事業）に過疎債を充当
・ソフト事業に過疎債を充当
→元利償還金の70%を普通交付税で国が措置

・国庫補助率のかさ上げ　など

今後の財政運営の留意点

【歳入の減少】
①生産年齢人口の減少による町税の伸び悩み
②地方交付税（国から交付される交付金）の縮減
③消費税率の引き上げ先送りによる社会保障財源確保の不透明感

今後の財政運営の留意点

【歳出の増加】
①高齢化の進展による扶助費の増加
②子育て支援や教育環境を充実するための経費の増加
③公共施設の老朽化による維持補修費の増加
④過疎債の活用による公債費の増加
⑤防災、減災対策費の増加

限られた予算の中で事業の選択と集中化を図り、
「小さくてもキラリ夢輝くまちづくり」の実現を
目指します。

＊ご清聴いただき、ありがとうございました。